

れきはく NEWS

vol.53
2021.AUG

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

CONTENTS

- 2 企画展「COME on 山陰弥生ライフ
—米作り、はじめました。—」
- 4 展覧会通信
- 5 れきはく通信／学芸員通信
- 6 れきはく夏まつり
- 7 古代文化センター通信
- 8 アテンド通信

《企画展》

米作り、
はじめました。

COME on 山陰弥生ライフ

イラスト：早川和子 画

R3. 9/17 (FRI) ~~~ 11/14 (SUN)





企画展

COME on 山陰弥生ライフ

— 米作り、はじめました。 —

会期 令和3年9月17日(金)～11月14日(日)

◎開館時間/[10月31日まで]9:00～18:00 [11月1日から]9:00～17:00

◎会期中の休館日/9月21日(火)・10月19日(火)

会場 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

主催 島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

米 作りによる田園風景は、日本列島各地の四季を彩る景観を構成しています。米作りは、今から3000年前から2800年前に朝鮮半島から北部九州に伝わり、列島各地に広まったとされています。近年の調査により、山陰地方にはイネ等の大陸系穀物が日本列島の中でも早い段階に伝わっていることが明らかになっています。山陰地方は、日本海を通じた交流によって、農耕文化の様々な文物がいち早く入ってきた地域なのです。

やがて各地との活発な交流を通じながら、農耕社会を確実に熟成させた結果、特徴ある青銅器文化が山陰地方で開花し、四隅突出型弥生墳丘墓に代表される王墓が誕生することとなります。

本展覧会では、縄文時代から弥生時代にかけて山陰地方や周辺地域の人々が残した文物を中心に紐解きながら、農耕社会形成過程の具体像に迫ります。



関門地域の貝殻文様の壺
(山口県綾羅木郷遺跡)
【山口県指定文化財】
下関市立考古博物館蔵

フローグ

弥生時代の炭化米や石包丁、土器などの出土品から、米作りが始まった頃の様子を紹介します。



初期の石包丁 (佐賀県葉畑遺跡)
【唐津市指定文化財】唐津市教育委員会蔵

主な展示品

- 弥生時代の炭化米 (松江市西川津遺跡/島根県埋蔵文化財調査センター蔵)
- 初期の石包丁 (佐賀県葉畑遺跡/唐津市教育委員会蔵) 【唐津市指定文化財】

第2章

開拓する弥生人 ～水田をつくる～

弥生人は、水田での米作りに必要な多様な木製の道具を作りました。木製品やその製作に関わる石器を中心に紹介します。



米作りが始まった頃の鋤
(佐賀県葉畑遺跡)
【唐津市指定文化財】
唐津市教育委員会蔵

主な展示品

- 米作りが始まった頃の鋤 (佐賀県葉畑遺跡/唐津市教育委員会蔵) 【唐津市指定文化財】
- 山陰の木製農具 (鳥取県青谷上寺地遺跡/鳥取県蔵) 【重要文化財】

第1章

縄文と弥生の葛藤 ～選択の時～

伝統的な縄文文化のもと生活していた人々は、どのようにして米作りや新しい文化を受け入れたのでしょうか。米作りが始まった頃の出土品を手がかりに、当時の人々の受け入れ方は地域ごとに様々であったことを紹介します。



縄文時代晩期の木棺墓
(大田市古屋敷遺跡)
島根県埋蔵文化財調査センター蔵

主な展示品

- 縄文時代晩期の木棺墓 (大田市古屋敷遺跡/島根県埋蔵文化財調査センター蔵)
- 日本海沿岸部最西端の初期弥生集落の出土品 (山口県本郷山崎遺跡/山口県埋蔵文化財センター蔵)

トピックス
①

農耕の起源を求めて

～土器の凹みから農耕の起源を解き明かす～

近年、イネ等の種実の痕跡が、土器の表面の凹みとなって残っているものが見つかっています。「レプリカ圧痕法」と呼ばれるこの新しい調査法を紹介し、その成果に焦点をあてながら、農耕の起源に迫ります。

主な展示品

- 列島最古級のイネ圧痕土器 (飯南町板屋Ⅲ遺跡/島根県埋蔵文化財調査センター蔵)
- 多量のマメ類圧痕がある縄文土器 (神奈川県勝坂遺跡/相模原市立博物館蔵) 【相模原市指定文化財】



多量のマメ類圧痕がある縄文土器
(神奈川県勝坂遺跡)
【相模原市指定文化財】
相模原市立博物館蔵

第3章 東西交流の姿

稲作開始期には、日本海を通じた交流が盛んになり、東日本との交流の痕跡も見られます。関連する出土品を紹介しながら、ダイナミックな東西交流の姿を解き明かします。

- 主な展示品**
- 副葬された半島系の磨製石剣・石鏃
(福岡県雑餉隈遺跡／福岡市埋蔵文化財センター蔵)
【福岡市指定文化財】
 - 西北九州型の巨大な結合式釣針
(松江市西川津遺跡／島根県埋蔵文化財調査センター蔵)



副葬された半島系の磨製石剣・石鏃
(福岡県雑餉隈遺跡)
【福岡市指定文化財】
福岡市埋蔵文化財センター蔵



最古の王墓の副葬品
(福岡県吉武高木遺跡)
【重要文化財】国(文化庁保管)
写真提供／福岡市埋蔵文化財センター

第4章 山陰の弥生人

米作りが始まった頃の山陰では、土笛、貝殻文様の土器、管玉生産関連遺物等、特徴的な出土品が発見されます。他地域の出土品と比較しながら、特色ある山陰の弥生時代を紹介します。

- 主な展示品**
- 関門地域の貝殻文様の壺
(山口県綾羅木郷遺跡／下関市教育委員会蔵)
【山口県指定文化財】
 - 米作りが始まった頃の玉類
(佐賀県菜畑遺跡／唐津市教育委員会蔵)
【唐津市指定文化財】

トピックス ②

弥生人の姿 ～人面表現～

西日本では、人面をかたどった弥生時代の土製品が出土します。様々な人面表現を見ながら、弥生人の姿に思いを馳せてみませんか。

長門の人面土製品
(山口県綾羅木郷台地遺跡)
【山口県指定文化財】
山口県埋蔵文化財センター蔵



- 主な展示品**
- 出雲の人面表現 (西川津遺跡／島根県埋蔵文化財調査センター蔵)
 - 長門の人面土製品
(山口県綾羅木郷台地遺跡／山口県埋蔵文化財センター蔵)
【山口県指定文化財】

第5章 転換そして成熟する弥生文化 ～王墓・青銅器の出現と丘陵の環濠～

米作りの伝来から約600年程が経った頃、社会は大きく転換します。それは、青銅器などの金属器の出現や王墓の先駆けと考えられる副葬品を持つ墓の出現からうかがうことができます。

- 主な展示品**
- 最古の王墓の副葬品 (福岡県吉武高木遺跡／文化庁蔵)
【重要文化財】

エピソード 現代まで続く米作りの歴史 ～品種の起源と米作りの流れ～

弥生時代に始まった米作りは、今も脈々と受け継がれています。ここでは、品種の起源と機械化される以前の米作りの姿について、関連資料から振り返りたいと考えます。

- 主な展示品**
- イネの品種が記された古代の木簡
(鳥取県青谷横木遺跡／鳥取県埋蔵文化財センター蔵)
 - 米作りの一部始終を伝える近世の農耕彫刻
(宇都宮市／宇都宮市瓦谷町上自治会蔵)



米作りの一部始終を伝える近世の農耕彫刻 (宇都宮市) 宇都宮市瓦谷町上自治会蔵
写真提供／宇都宮市教育委員会

こちらもおすすめ!

● 新型コロナウイルス感染症の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。最新の情報は当館ホームページをご覧ください。

特別展 関連 イベント

弥生人もビックリ!? 稲わらリースづくり



体験水田で育てた稲を使って
オリジナルのリースを作ります。

- 日 時／11月6日(土)
〈午前の部〉10:00～11:00
〈午後の部〉14:00～15:00
- 会 場／古代出雲歴史博物館 体験工房
- 参 加 費／300円＋企画展観覧料
- 対象年齢／小学生以上
(6年生以下は保護者同伴)

各回
定員10名

参加をご希望の方は、下記の方法でお申し込みください。

- お申し込み方法
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先
〒699-0701 島根県出雲市大社町梓築東99-4
古代出雲歴史博物館
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350
<https://www.izm.ed.jp>

【個人情報の取り扱いについて】
この申し込みによって収集した個人情報は、島根県の規定に従って取り扱い、関連イベント・講座開催の目的にのみ利用するほかは、法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

イベントに参加される際は、マスクの着用をお願いします。

企画展

出雲と都を結ぶ道

— 古代山陰道 — (仮)

◎会期／令和4年3月18日(金)～5月15日(日)

■開館時間／9:00～18:00 ■会期中の休館日／4月19日(火)

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

◎主催／島根県立古代出雲歴史博物館

道路は私たちの暮らしに欠くことのできない社会基盤です。離れた場所の人々や物資を結びつけて、文化や産業を発展させます。道路の整備は大変重要であり、島根県でも優先施策に位置づけて道路の建設や維持管理を行っています。

さて、このように現代でも道路は重要ですが、古代においてはその整備はより重要でした。特に古代の高速道路といわれる「駅路」は都と地方を連絡し

て、当時の社会を支えました。近年、山陰両県では「駅路」を含む道路遺構の発見が相次ぎ、古代道路の解明が進みつつあります。

今回の企画展では山陰の「駅路」やその他の交通関係の資料を、山陰道各国（丹波国、丹後国、但馬国、因幡国、伯耆国、出雲国、石見国、隠岐国）の様子に触れながら、現代にも通じる交通網の果たす役割を紹介します。



隠岐国駅鈴(個人蔵)【重要文化財】

体験水田で田植えをしました

古代出雲歴史博物館では、毎年、体験水田で古代米（赤米）を栽培しています。昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため職員のみで田植えをしましたが、今年度は感染症予防対策を行った上で、2年ぶりに島根県立出雲農林高校植物科学科3年生とたいしゃ保育園の皆さんも参加し、楽しく行うことができました。

6月8日(火)、梅雨であることを忘れさせてくれる青空の下、水を張った水田に入りました。高校生が園児に声をかけながら作業を行ううちに笑顔が広がっていきました。現在は機械化が進み、手作業で苗を植えたりすることは少なく、貴重な体験となったと思います。

秋には稲刈りを実施する予定です。また、9月からは「米作り」に関する展覧会が始まります。古代の人々がどうやって米作りをしていたか、遺跡から出土した農作業の道具を見ながら考えてみませんか。



田植えを一緒に行う生徒や園児

かなり大きく育ちました！



尼子勝久書状の紹介

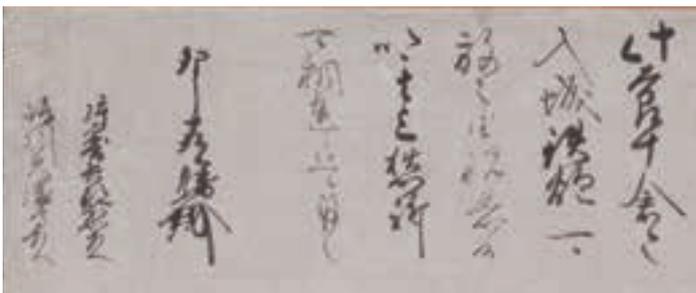
●れきはくの古文書について

古文書とは紙などに書かれた文字資料のことで、歴史を知るための手がかりとして不可欠です。島根県内にも数多く古文書が残されていますが、今なおその全容は不明です。当館では、後世に古文書を伝えていく観点から、古文書の収集・保存・調査研究を行っています。

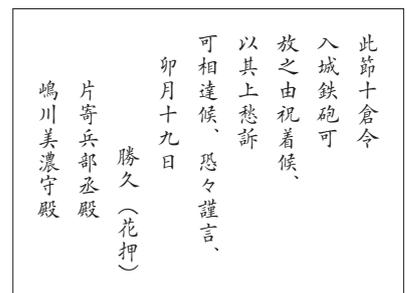
館蔵品の一例として、今回は戦国時代の武将・尼子勝久が出した書状を紹介します。永祿12年(1569)～元龜2年(1571)にかけて、尼子勝久は山中幸盛らと共に出雲国に攻め込み、反毛利の戦いを繰り広げました。この文書はその際に出されたものと考えられます。嶋川美濃守・片寄兵部丞が十倉城(戸倉城、現・出雲市稗原町)にて鉄砲を用いて勝久に味方する旨を伝えたことと記されています。

ちょうどこのころ、山陰地方の合戦でも毛利氏が鉄砲を使用し始めていますが、実は対抗する尼子氏も同じく新兵器を活用していたことがわかります。一見すると、ごく簡潔な内容の書状ですが、実は戦国時代の戦場の様子を伝えてくれる貴重な手がかりになるのです。

■交流普及スタッフ 主任学芸員 伊藤 大貴



尼子勝久書状



翻刻文

れきはく

Rekihaku
Summer
Festival
2021

夏まつり

たくさんのご来場
まことにありがとう
ございました!



夏空に響き渡る!
出農太鼓

7月25日(日)、古代出雲歴史博物館恒例の夏まつりを行いました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大により中止したため、感染対策を行った上で2年ぶりに開催しました。ムシムシとして猛烈に暑い日となりましたが、そんな中でも多くの皆さまにご来場いただきました。

出雲農林高校の「出農ショップ」での買い物を目的にいらっしゃった方も多く、その人気に驚きました。生徒さんが丹精込めて育てた夏野菜などが飛ぶように売れていきました。

また、出雲弥生の森博物館の「缶バッジづくり」、石見銀山世界遺産センターの「銀さがし体験」、荒神谷博物館の「プラ板づくり」、島根県立美術館の「北斎コレクションオリジナルペーパーバッグづくり」と、様々なワークショップでにぎわいました。

当館からは、開催中の特別展「子ども／おもちゃの博覧会」の関連イベント「しょうのう船を作ろう」や、体

験ブース「せっけんで走る舟をつくろう」、「黄金に輝く！かんむりをつくろう!」、「昔ながらのおもちゃで遊ぼう」など、おもちゃ遊びをテーマに子どもたちに楽しい時間をすごしていただきました。

午後からは、大人気の出雲農林高校の「出農太鼓」がはじまり、会場の雰囲気は最高潮！夏の青空にドーン！ドドーンと勇壮な太鼓の音が響き渡りました。

コロナ禍の開催でしたが、夏のひと時、皆様に楽しんでいただけたのではないかと思います！ご来場、まことにありがとうございました！



好きな浮世絵を選んで!
北斎コレクション
オリジナル
ペーパーバッグづくり



見つかるかな?
銀さがし体験



みんなで競争!
せっけんで走る
舟をつくろう



うまく進むかな?
しょうのう船を
作ろう



親子でいっしょに!
プラ板づくり



人気の夏野菜がいっぱい!
出農ショップ



好きな絵を描いて!
缶バッジづくり



黄金に輝く!
かんむりをつくろう!

◎島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

今年度開始のテーマ研究

令和3年度から始めた古代文化センターのテーマ研究です。研究終了後、その内容を古代出雲歴史博物館で企画展として展示する計画です。

島根県域における 弥生社会の総合的研究

(研究期間: 令和3～令和6年度)

古代出雲最大の謎である、荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡の青銅器大量埋納。他に例を見ない異常な数の青銅器は、どのような集団によってこの地に集められ、埋納されたのでしょうか。

それを考える手がかりは、およそ2000年前の島根が、どのような社会だったのか明らかにすることにあります。島根県古代文化センターでは、これまでも、古代出雲の青銅器文化、山陰の弥生文化形成期の研究など、弥生時代をテーマとした様々な調査研究を行ってきました。

本研究では、これまでの研究成果を踏まえ、出雲地域を中心に、弥生時代の文化・社会の特質を総合的に明らかにします。研究成果は令和6年度に、企



荒神谷の青銅器群

画展や研究論集刊行など様々な方法で公表することを計画しています。今後どのような弥生社会像が見えてくるのか。どうかご期待ください。

■ 主担当者：専門研究員 東森 晋

中世山陰の戦争と地域社会

(研究期間: 令和3～令和6年度)

一般に「戦国時代」と呼ばれる日本列島の16世紀は、その名の通り「戦い」に象徴される時代であり、研究者に限らず多くの人々の関心を集めています。

ただし、この時代の戦いは、単に合戦の勝敗や、戦国大名の興亡のみによって語り尽くせるわけではありません。戦いのあり方やその背景に深く踏み込んでみれば、この時代と地域を理解するための様々な手がかりを見いだすことができます。

例えば「城」に注目してみましょう。城の施設(堀や石垣など)は、軍事的な施設として当時の戦いのあり方とその変遷を物語りますが、遺物や城下の遺構からは、人々の暮らしの痕跡を見いだすこともできます。また、城の立地は地域の流通・交通とも密接に関わっていました。その他にも、城は時に地域

民衆の避難所になり、信仰の場とも結びつくなど、非常に多彩な側面を有していたのです。

中世の戦いについては、それ

が地域の人々や社会のあり方に広く深く結びついた「戦争」であることを意識し、多様な視角から分析することが重要でしょう。本テーマ研究では、16世紀から17世紀初頭における「戦争」を手がかりとしながら、当時の山陰地域の様相に迫ります。

■ 主担当者：研究員 田村 亨



1980年に調査が実施された富田城下の遺構
(富田川河床遺跡)

接遇研修へ行ってきました

古代出雲歴史博物館のアテンダントは接遇の知識と経験を活かして、県内の中学生を対象に接遇研修を行っています。

6月は松江市、出雲市、雲南市の中学校4校から職場体験実習の事前学習として依頼をいただき研修を行いました。

内容は、実習先でお世話になる方々への挨拶、態度、言葉遣いなど、社会での人とのコミュニケーションで大切な心構えを学び、実際に体を動かして正しい姿勢やお辞儀の仕方を実践するというものです。アテンダントが日頃お客様に接する際に大切にしている接遇の5原則「挨拶」「表情（笑顔）」「身だしなみ」「言葉遣い」「態度（立ち居振る舞い）」をもとに、中学生の皆さんの生活にも活かせるようにわかりやすくお伝えしています。

どの学校も熱心に取り組んでくださり、研修後の

生徒さんの感想文には「第一印象の大切さがわかりました」「笑顔には相手に安心感を与え自分も元気になる大きな力があると感じました」「職場体験に限らず、今後の生活や面接にも活かしていきたいです」ということを多く書いてくださっています。そういった感想をいただくと、少しでも皆さんのお役に立てていると実感することができ、私たちにとっても、とても励みになる経験になっています。

研修を通して、先生や生徒の皆さんからいただく明るく前向きな力を糧に、今後も歴博にご来館いただくお客様へのおもてなしに活かして参りたいと思います。



どこ行く? **れきはく!**



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
[URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] contact@izm.ed.jp
開館時間/9:00~18:00(11月~2月は9:00~17:00)
休館日/第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター
雲太くん



発行/令和3年8月



マスコットキャラクター
出雲ちゃん